

平成 23 年度 第 3 回 JICA 貿易促進研修 -JICA Foreign Trade Development Course-



(JICA 兵庫センターにてワークショップ)

研修期間：平成 23 年 6 月 6 日～7 月 15 日 (6 週間)
研修場所：神戸/大阪/岡山/広島/三木/東京/名古屋
研修内容：貿易促進に関する講義/視察
参加研修員：6 名(アルゼンチン 1、バングラデシュ 2、
ラオス 2、モンゴル 1)

当財団では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの委託を受け、貿易促進研修を実施しました。本研修は非常に長い歴史を持ち、1974 年の開始以来、今年で 38 年目を迎えました。本年度は、アルゼンチン、バングラデシュ、ラオス、モンゴルから、貿易振興担当の政府職員を 6 名迎え、神戸市内を中心に 6 週間の研修を行いました。世界経済のグローバル化が進み、貿易促進の重要性がますます高まる中、日本は貿易立国として急速な経済発展を進めてきました。研修員は、そのような日本経済の特徴や取り組みを学び、研修員の自国の農産品・軽工業品の貿易振興を目指す政策案を作成しました。

～研修を振り返って～

来日当初、研修員は慣れない日本での生活に少し緊張気味の様子でしたが、最後には、自国に帰ると神戸が恋しく神戸に戻りたいとホームシックになるだろう、と日本を去るのを惜しむ様子が、とても印象に残っています。

6 週間の研修期間中、主な研修場所は神戸でしたが、岡山、広島、東京、名古屋にも研修旅行に出かけ、毛筆などの伝統産業から、日本の主要産業である鉄鋼業の現場に至るまで、様々な分野の視察を行いました。研修員は、目の前で繰り広げられるダイナミックな厚板の製造プロセスに圧倒されたり、伝統の技が光る化粧筆の製造工程では、一つ一つ手作業で行われる繊細な職人技に魅せられていました。

研修員からは、「日本の企業は、質の良い製品やサービスを提供するために常に献身しており、その組織は大変素晴らしい」「日本人は誠実、時間に正確」「親切で礼儀正しい」「特に鉄道網が素晴らしく、魅力的な文化を有した美しい国である」など、多くの嬉しい感想が寄せられました。研修を通して、貿易促進に関する知識のみならず、多くの方々と交流し、社会生活を送る中で、「日本」を感じ、経験してもらえたこと、帰国を惜しむほど「神戸・日本」に思いを寄せてもらえたことを大変嬉しく思います。

長い歴史を持つ本研修も、本年度でその歴史の幕を閉じることとなりました。長きにわたり、ご指導、ご協力頂きました講師の方々、関係者の方々に、改めて厚くお礼申し上げます。本研修に参加した研修員全員が、日本での経験を大いに活かし、今後の自国の発展に繋げていけるものと切に期待しています。

研修担当：原田 美保代

委託元機関：独立行政法人国際協力機構(JICA)兵庫国際センター

研修指導者：神戸大学大学院国際協力研究科 松永 宣明 教授

講義/視察先：神戸大学/関西学院大学/京都産業大学/中京大学/流通科学大学/

九州大学/豊橋技術科学大学/

神戸市産業振興局/経済産業省近畿経済産業局/(独)日本貿易保険/

国際協力銀行/(財)日本規格協会/(独)中小企業基盤整備機構/

財務省神戸税関/(独)農林水産消費安全技術センター/

農林水産省神戸植物防疫所/

白鶴酒造(株)/カワノ(株)/日本繊維輸入組合・日本繊維輸出組合/

協同組合産団協/大島金属工業(株)/神戸インターナショナル(株)/

西神インダストリアルパーク/パナソニック(株)/敷島製パン(株)/

JFE スチール(株)/(株)白鳳堂/(株)ミツクラ/(株)上組/

三木工業協同組合/(株)岡田金属工業所/三菱 UFJ リサーチ&

コンサルティング(株)/丸紅(株)/トヨタテクノミュージアム

産業技術記念館/農食研/生活協同組合コープこうべ 【順不同】
